

# 島根2号機再稼働



発行所  
山陰中央新報社

松江市殿町383  
郵便番号 690-8668  
電話 総合案内 0852(32)3440



山陰中央新報の購読申し込みは  
0120-49-2550  
受付時間 9:30-17:30 (日曜、祝日除く)

## 中電、12年11カ月ぶり

中国電力島根原発2号機(松江市鹿島町片句、出力82万 $\text{kW}$ )が7日、再稼働した。稼働は12年11カ月ぶり。中電は今月下旬に発送電を始める予定で、来年1月上旬の営業運転再開を目指している。島根原発は全国で唯一、県庁所在地に立地し、半径30 $\text{km}$ 圏に全国で3番目に多い約45万人を抱え、避難計画の実効性など稼働後も課題が山積している。

(高見維吹)



中国電力島根原発2号機のモードスイッチを「起動」に切り替える運転員＝7日午後2時58分、松江市鹿島町片句(代表撮影)

2号機は2011年3月に事故を起こした東京電力福島第1原発と同じ沸騰水型。同型の再稼働は東北電力女川原発2号機(宮城県)に次いで2基目で、福島事故後、国内で再稼働した原発は8原発14基となった。



中国電力島根原発2号機



7日午後3時前に2号機の中央制御室で、運転員がモードスイッチを「燃料交換」から「起動」に切り替え、核分裂を抑える制御棒を引き抜く作業を進めて原子炉が起動した。約2時間後に核分裂反応が持続する「臨界」に到達する見込み。今後、原子炉を一度停止して機器の状態を確かめるなど発送電に向けた検査、確認を実施する。

安全対策工事は10月28日に完了し、燃料計560体を原子炉に入れる「燃料装荷」を11月3日に終えた。原子炉圧力容器と原子炉格納容器のふたを取り付け、耐圧や漏えいの検査を同月30日までに実施した。原発事故に備えた避難計画の策定が必要な30 $\text{km}$ 圏に松江、出雲、安来、雲南、米子、境港6市が入る。島根県は12年に全国に先駆けて広域避難計画を策定。訓練を重ね、見直してきたが、自力で避難が難しい要支援者約5万7千人への対応など課題は多い。

島根原発 全国で唯一、県庁所在地に立地する。2号機は1989年2月に営業運転を開始。2012年1月から定期検査で停止していた。13年12月に原子力規制委員会の審査を申請し、21年9月に合格。22年6月に地元同意の手続きを終えた。テロ対策の「特定重大事故等対処施設」を28年8月29日まで建設する必要がある。3号機(出力137・3万 $\text{kW}$ )は30年度までの新規稼働を目指し、規制委で審査中。1号機(46万 $\text{kW}$ )は17年7月に廃炉作業に着手し、49年度の完了を計画している。

